

第4回蒲郡市住生活基本計画策定委員会 会議録

開催日時	令和2年11月18日（水）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	蒲郡市役所 本館3階 304会議室
出席者	<p>【委員長】 名古屋大学 教授 小松 尚</p> <p>【委員】 蒲郡市総代連合会 副会長 金田 博充 蒲郡商工会議所 専務理事 山下 英孝 蒲郡市社会福祉協議会 事務局長 岡田 隆二 蒲郡市ボランティア連絡協議会 藤田 智江 蒲郡市子育てネットワーク連絡会 小林 浩子 愛知建築士会蒲郡支部 支部長 市川 昌寿 愛知県宅地建物取引業協会東三河支部 羽賀 浩正 愛知県建築局公共建築部住宅計画課長 菅沼 満 蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚</p> <p>【事務局】 建設部建築住宅課 課長 孕石 勝也 係長 永谷 礼子 主事 加藤 喬士</p> <p>【委託業者】 ランドブレイン株式会社 2名</p>
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 計画書（原案）の確認について (1) 策定スケジュールの確認 (2) 策定委員会における主なご意見と対応 (3) 計画書（原案）について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・蒲郡市住生活基本計画策定委員会名簿 ・蒲郡市住生活基本計画の策定スケジュール【資料1】 ・住宅施策の体系【資料2】 ・策定委員会（第1回・第2回）における委員からの意見整理【資料3】 ・第3回策定委員会における主なご意見と対応【資料4】 ・蒲郡市住生活基本計画（原案）【資料5】
会議内容	<p>1 事務局挨拶</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 計画書（原案）の確認について (1) 策定スケジュールの確認 配布資料1に基づき事務局が説明。 （質疑なし）</p>

(2) 策定委員会における主なご意見と対応

事務局：

前回の策定委員会（10月1日開催）において、計画書（素案）の第3章以降の部分で、策定委員会の場合だけでなく、期限を設け、後日ご意見をいただくこととしておりましたが、委員から「サステナブル（持続可能）な建築」についての内容を記載してはどうかというご意見をいただきまして、基本目標5の施策の方向に反映させ、整理しました。サステナブル建築とは、地球や地域環境に配慮しながら、耐久性の高い建築物を構築することで、長く利用し続けることを指していることから、「環境に配慮した住まいづくり」を「世代を超えて長く使い続けることができる良質な住宅ストックの形成」の施策の方向に入れ、文章の内容についても整理しました。

配布資料3・4に基づき事務局が説明。
（質疑なし）

(3) 計画書（原案）について

配布資料2・5に基づき事務局が説明。

質疑応答（発言順）

A委員：

計画書（原案）の24ページ「現在の住宅に住んだ時期」のアンケート調査結果表の年代の誤りの修正と46ページの基本方針1の文章で「若い世帯」、「若年世帯」という記載が混在しているので、どちらかに統一したほうがよい。

また、27ページに「蒲郡市の外国人居住者は、増加傾向にあり、今後も増加が予想されます。」とあるが、新聞で「コロナ禍において、県の人口が減少し、国外からの転入者が減ったことが原因ではないか」という記事があった。一度現状を確認したほうがよいのではないか。

委員長：

新型コロナウイルス感染症や景気の影響で外国人居住者の状況も変わるので、その記載もあるとよい。

B委員：

市民意識調査を根拠とした将来指標があり、少数点以下の細かい数値もあるが、算定の根拠はあるのか。

事務局：

推計値を使用しています。「住み続けたい」と思っている割合については、平成21年から令和2年にかけて減少しているので、平成21年の数値に戻すということで、平成21年の数値を目標としています。

	<p>委員長： 小数点以下の数値は不要ではないか。</p> <p>事務局： 一部、第五次総合計画に記載予定の指標もあるので、整合性を取りながら整理します。</p> <p>委員長： 第五次総合計画からの引用予定であれば、出所の記載についても整理すべき。</p> <p>C委員： 推計値を使用しているとのことだが、推計値は特に施策を行わなくても、その数値になるということだと思うが、将来（成果）指標とするならば、推計値に上乘せをした数値にしたほうがよいのではないか。</p> <p>委員長： 「住み続けたい」と思っている割合が減少しているということだが、その状況分析の記載が計画内にないので、16ページの課題2「若年世代が、子育てしやすく、住み続けられる住環境の整備」の箇所等に記載し、指摘する必要がある。</p> <p>D委員： その割合が減少していることについては、海に近いところでは、東日本大震災での水害等へのイメージの影響もあるのではないか。</p> <p>E委員： 60ページの将来指標（成果指標）のところで、現状値、中間値、目標値の年次とは別の年次の記載があるものがあるが、分かりにくいので注釈が必要ではないか。</p> <p>事務局： 分析と将来指標の記載について整理します。</p> <p>E委員： SDGsについて、どのように記載するのか。</p> <p>事務局： 各基本目標の見出しの横の部分に目標のアイコンを記載する予定です。</p> <p>委員長： パブリックコメント前の最後の策定委員会となるため、一人ずつ意見又は感想をいただきたい。</p>
--	--

F委員：

横の連携について、高齢者の居場所づくり、子どもの居場所づくり、自主防災会、防犯協会等様々な動きがあり、それぞれの連携が取れているのかを大切にしてほしい。横の連携を密にしていくことが、この計画を推進していく上で大切だと感じた。

E委員：

他の計画の策定会議にも参加しているが、上位計画とのすり合わせも必要ではないか。また、企業との連携がまだ具体的には進んでいないように感じるので、企業という視点がこの計画や防災等にどう連携していくかが課題だと思う。

委員長：

計画を運営していく段階で、計画の連携と主体の連携が必要である。第5章で、PDCA サイクルを回すために、計画の連携、組織の連携を記載していただきたい。

G委員：

この計画は、非常に幅広い計画だと感じた。バリアフリー化については、この計画の将来指標にもなっており、力を入れていただきたい。また、市営住宅のバリアフリー化等の低所得の方への施策もお願いしたい。

委員長：

住生活基本計画については、以前は住宅マスタープランとして住宅をどれだけ準備するのかという計画だったが、今はそういう時代ではなく、今あるストックでどうやって住宅施策を実現していくのか、地域を活性化していくのかが重要視されている。また、福祉部局、子育て部局が密に連携しないと、基本目標の数値目標を達成することは難しい。そのあたりは、連携を密にする必要がある。

H委員：

市民との連携を密にしていきたい。高齢者や外国人、障がい者の方が相談に行った際に、横の連携を密にしていきたい、たらい回しにならずに問題解決ができ、市民の方が幸せに暮らせる蒲郡市であってほしい。

A委員：

子育て施設的环境が良くなってほしいというアンケート結果があるため、ハードの部分は費用も時間もかかるので、ソフトの部分で支援できることをしていきたいと感じた。

D委員：

この計画を策定し、住まい・まちづくり施策をどのように考え、推進していくのかなどを動画サイト等を利用してPRし、

発信していくことが大切だと思う。また、ワークショップ等を取り入れ、市民の意見を吸い上げていくことも大切ではないか。

I 委員：

この計画では、蒲郡市全体のことが記載されているが、地域によって状況は変わってくる。空家については、市街地では借り手がいるが、大塚や西浦、形原では難しい場合もある。地域ごとで施策が考えられるとより良いと感じた。

B 委員：

空家に関する施策について、空家等対策計画のように、空家の適正管理・予防を行った上で利活用になると思うので、施策の方向・事業イメージの順番を入れ替えてはどうか。

また、基本目標4「空家の流通促進と発生の抑制」のタイトルに「適正管理」を入れてはどうか。

委員長：

空家の発生は抑制しないといけないが、ゼロにはできないので、所有者並びに関係者が自分の事としてもらう必要がある。行政としても、行政代執行を避けたいので、適正管理の方法については、市民でも取組むべきことがあるので強調した方が良い。

C 委員：

蒲郡市は、海や山があり、交通の便が良いため通勤もしやすく住む場所として良いところだと思う。以前は土地が高いと言われていたが、現在は幸田町などより安くなっているようで、住んでもらうチャンスではないかと感じる。そこにこの計画の施策について横の連携を密にして、効果的に推進し、より良いまちにしていきたい。

委員長：

住生活基本計画は、基礎自治体レベルでは策定義務のある計画ではないため、この計画の策定は、蒲郡市が生活という視点から今後の蒲郡市をどのようにしてくかを真摯に考えていこうという思いの表れである。計画をまとめ、策定することがゴールではないので、この計画に基づいて、何をどの程度実現していくかを考え、最終的には市民の方が実感を持てるような成果をこの10年間で上げていただきたい。

これまでは、行政がリーダーとしてまちづくりを進めてきたが、行政だけでできることは限られるので、市民や様々な団体を信じ、協働し、時には任せていくことが必要になってくるのではないか。適材適所で、相互に連携し、蒲郡市らしい取組の仕方を作り上げてほしい。

以上